

2025年高等学校生徒セラミック作品展

全国のセラミック科設置の高校より、生徒の作成した作品を出品いただき、
ホームページ（ <https://www.ceramic.or.jp/about/education.html#artwork> ）で紹介しています。

	No	作品名	学校名	作者氏名
	1	銅霰(どうさん)	福島県立会津工業高等学校	五十嵐康誠
	2	ジュピター	福島県立会津工業高等学校	中川莉旺
	3	惺華(せいか)	福島県立会津工業高等学校	渡邊人
	4	最後の思い出をこの少女に	愛知県立瀬常滑高等学校	黒木桃香
	5	茶器セット	愛知県立瀬常滑高等学校	池尻桃心
最優秀賞	6	宙 -pentagon-	佐賀県立有田工業高等学校	田代隆真
	7	窯ガチャカバーの制作	佐賀県立有田工業高等学校	沖田菜々美、川崎蒼生、木下颯大、西悠貴
	8	海物語	岐阜県立多治見工業高等学校	酒井悠希、大杉美月
	9	瀬戸黒茶碗	岐阜県立多治見工業高等学校	佐野琥汰
	10	my strongpoint	長崎県立波佐見高等学校	片桐詩音
	11	ヤマタノオロチ	長崎県立波佐見高等学校	長岡拓巳
	12	擬態中	長崎県立波佐見高等学校	新郷那月
	13	film	長崎県立波佐見高等学校	山北理央
	14	花器と小物入れ	大阪府立泉尾工業高等学校	小野楓
	15	小物入れ	大阪府立泉尾工業高等学校	黒島秀作
	16	喫茶セット	大阪府立泉尾工業高等学校	山内航聖
	17	積み木式電飾（12cm 角の立方体×5 個）	大阪府立泉尾工業高等学校	泉風香、宇都木朔也、森野悠成、山内航聖、吉貴優心
	18	信楽焼伝統花器	滋賀県立信楽高等学校	金澤真叶
	19	海の仲間	滋賀県立信楽高等学校	田中心
	20	かくれ家	愛知県立瀬戸工科高等学校	長江彩来
	21	ティータイム	愛知県立瀬戸工科高等学校	瀧口葵
優秀賞	22	犬之頼光酒呑大猿退治之図	愛知県立瀬戸工科高等学校	古賀千晶
	23	ゼーゲル式の教材	愛知県立瀬戸工科高等学校	バオアンユリ、大崎詩織、伊佐治優寿美、川崎脩人
	24	コーヒー殻を再利用した植木鉢	愛知県立瀬戸工科高等学校	山本志楽、鬼頭海都、坂優亜、土岐音和、長江彩来
	25	POTAN ちいさな玄関に、小さな傘立てを	愛知県立瀬戸工科高等学校	大橋栞、瀧口葵、恩田紗季、松井妃乃、小久保恭介

作品№1



どう さん
銅 霰

出品者所属・氏名：福島県立会津工業高等学校・五十嵐 康誠

この作品の名前の由来は、青銅のような光沢と茶色の細かな結晶が重なり、青銅の器に霰が散ったように見えることからこの名前を付けました。

この作品の特徴としては、細かな結晶とその間から見える金色を帯びた青銅のような光沢により、どこか冷たく落ち着いた雰囲気になっているところです。また作品の内側は焦げた茶色で艶のない質感が全体に広がっており、外側とは対照的に少し暖かい雰囲気があり、全体を見ると独特で、見たことのない作品に仕上がっています。

作品の形状は深さを持った鉢を意識し、深めに作ったことで中の釉薬の色に深みを持たせています。ただ、この釉薬は少しの条件ですぐに思っていた色とは全く違う色や質感になります。試行錯誤を重ねて釉薬の特徴を活かし、独特で面白い作品ができました。

寸法 縦横 19.5cm 高さ 11.0cm

作品№2



ジュピター

出品者所属・氏名：福島県立会津工業高等学校・中川^{ながわ} 莉旺^{り お}

この作品は題名の通り木星をイメージして作りました。理由は二つあります。一つ目にジュピターとは、ローマ神話の中では主神と言われ、天候「特に雷」を司る神とされています。この作品とのつながりは、まさに雷を司るところにあります。この作品を見ると無数の横線が入っており、それを雷として見立てて作りました。二つ目に色合いと模様が木星に似ていたため真っ先に思い浮かんだからです。さらに木星は太陽系の中で一番大きく質量も最大のため数多くの彗星や小惑星を引き寄せ地球をはじめ内惑星を保護する存在です。僕がこの作品に込める思いは僕の作品を含めこの美術展に参加された数多くの作品を惑星、恒星だと思っています。なぜなら作品は一人一人の個性があってそれを完璧に模倣できる人はいないと思ったからです、作品を作った自分でさえも。惑星は小さな石などがぶつかった衝撃で誕生すると聞いたことがあります。そんな惑星のように人のろくに懸ける想いと忍耐力がぶつかり合ってビックバンを起こして誕生したのが陶器、陶磁器の作品です。そして数多の作品の中から木星のように堂々としたこの作品に視線が集まることを期待したいと思います。

「寸法」 高さ 14.0 cm 縦・横 11.0 cm

作品№3



せい か
惺 華

出品者所属・氏名：福島県立会津工業高等学校・^{わたなべ}渡邊 ^{じん}人

この「惺華」という名前にした理由は「惺」とは静か、心が静かななどを意味しており、寒色系の紺色の釉薬と合うと思いつき、「華」は何枚もの花びら状の物をろくろ成形したものに付け結果全体的な形が花のようになったことからつけました。ことから付けました。このことから「青く静かな花」を意味してつけました。高校最後の作品ということで、これまでにない新しいことにチャレンジしてこれまでで1番の作品を作りたいと思い、いつもろくろで成形後、手びねりで花びら状のものを作り形が完璧に同じじゃないものを花と似せるように複数枚重ねて付け散る前の花を再現しました。バランスを取るのが難しく折れそうになったり曲がりそうになったりとかかなり調節が大変でした。寒色系の花をイメージしたものを作りたいと思い、釉薬はこれまでいろいろなものを試した中で1番きれいに色が出るコバルトを使用した紺色の釉薬にしました。花びらの先が少し流れたことで散る前の花の色が抜けるところを再現できたと思います。

寸法 高さ「13cm」 縦・横「16cm」

作品№4



学校名 愛知県立常滑高等学校

学 年 3年

生徒名 黒木 桃香

題 名 『 最後の思い出をこの少女に 』

サイズ

W 700 ×D 500 ×H 460 mm

素 材

ALL セラミック

作品№5



学校名 愛知県立常滑高等学校

学 年 3年

生徒名 池尻 桃心

題 名 『 茶器セット 』

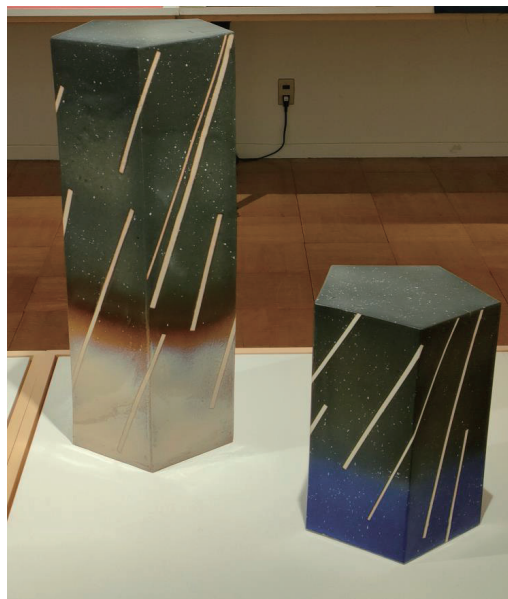
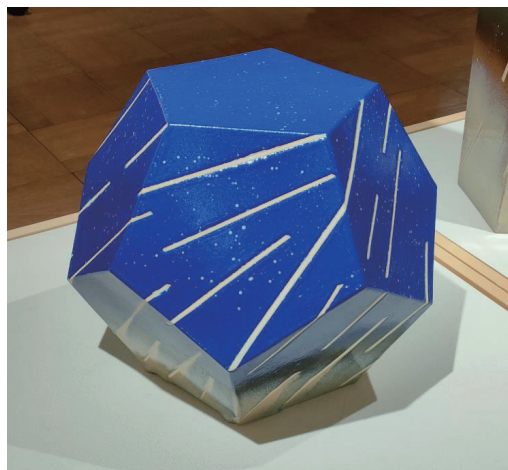
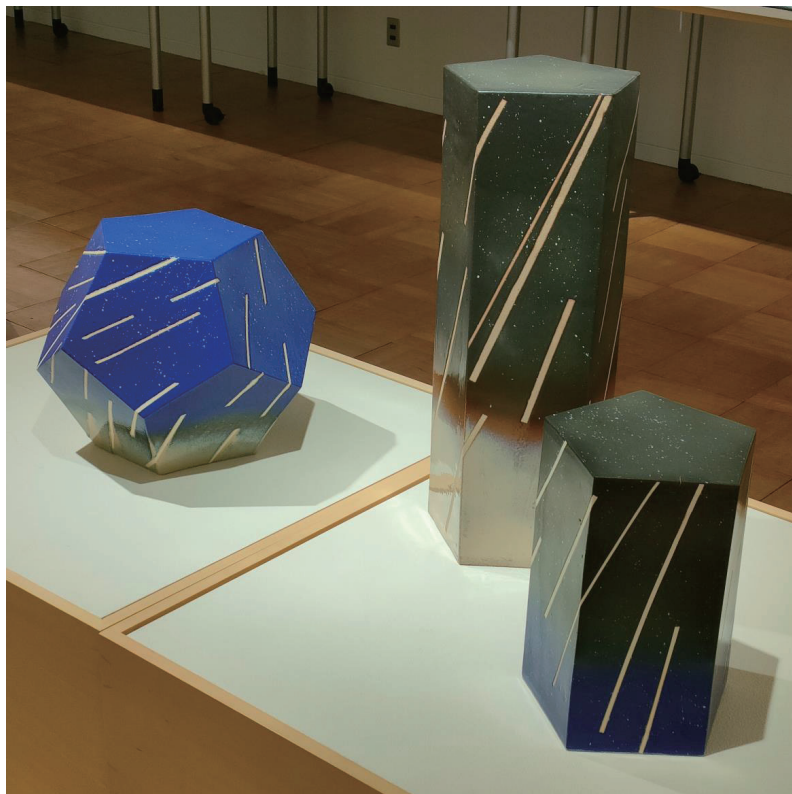
サイズ

W 500 × D 500 × H 100 mm

素 材

A L L セラミック

作品№6



【寸法：幅×奥行×高さ（mm）】

十二面体（作品左）：415×435×350

五角柱（大）（作品中）：260×250×660

五角柱（小）（作品右）：250×240×350

宙 -pentagon-

佐賀県立有田工業高等学校 定時制課程 セラミック科・田代^{たしろ} 隆真^{りゅうま}

私は夜空を見ることが好きです。また、立体物にも興味があったので、「流星」と「五角形」をモチーフに制作しました。十二面体、五角柱（大）、五角柱（小）の3つで1つの作品です。

工夫したところは、宇宙を表す紺色と黒色の暗めの釉薬と地上を表す白い釉薬を自分で調合して作ったこと、マスキングを施して流星をイメージしたこと、上絵を施して星空をイメージしたことです。

流星を表したマスキング部分とグラデーションが見どころです。失敗もたくさんありましたが、最後まであきらめずに制作しました。作品が無事に完成して良かったです。



窯ガチャカバーの制作

【寸法：幅×奥行×高さ（mm）】：470×580×970

佐賀県立有田工業高等学校 全日制課程 セラミック科・
 おきた な な み かわさき あおい
 沖田 菜々美、川崎 蒼生、
 きのした そう た にし ゆう き
 木下 颯大、西 悠貴

佐賀県の文化課から依頼を受け、窯ガチャカバーを制作しました。

有田の町には窯元の煙突やトンバイ塀などが残っているので、それをモチーフに、もともになるデザインを考え、雲の中にミニチュア陶磁器を配置したり、プレートで陶磁器の違いを転写技法で説明したり、窯元を訪問して猫のプレート製作を行うなど、色々な素材や技法を駆使して制作しています。

窯ガチャカバーの制作を通して、日本遺産「肥前やきもの圏」の魅力について知ることができました。

作品№8



「海物語」

幅 600×D 奥行 510×高さ 180

出品者所属・氏名：岐阜県立多治見工業高等学校 酒井 悠希・大杉 美月

この作品は、海をテーマに作りました。本体は岩場をイメージして作り、その中に海の生き物の貝や亀、ウミウシなどを配置して、にぎやかになるようにしました。また、この作品は盆栽用の植木鉢の機能も備えており、真ん中にある丸い鉢の中に植物を入れることができます。そして、その周りの海の生き物が配置されているスペースには水をはることでより海辺の景色を再現することができます。実際に使ったり鑑賞したりして楽しんでもらえる作品に仕上がっています。

作品№9



瀬戸黒茶碗

出品者所属・氏名：岐阜県立多治見工業高等学校・佐野 ^{さの} 琥汰 ^{こた}

写真の説明

岐阜県の東濃地方に伝わる伝統的な美濃焼の一つである、瀬戸黒の茶碗を制作した。

左写真は、正面

右上写真は、上から

右下写真は、作品裏側

作品寸法（直径 10.5 cm × 高さ 6.5 cm）

作品№10



■ 作品の寸法 横 320 mm × 奥行 280 mm × 高さ 280 mm

my strongpoint

出品者所属・氏名：長崎県立波佐見高等学校・片桐 ^{かたぎり} ^{しおん} 詩音

私の中でスカートは華やかで、「身に着けた人に勇気と自信をくれるもの」というイメージがあり、そのような華やかでキラキラした作品を作りたいと思って制服のスカートをモチーフとして選びました。また、スカートの揺れやシルエットを陶芸の質感で再現することで、その一瞬の美しさを形に残したいと考えました。

制作するにあたって特にこだわったのはプリーツの形とスカートの色です。布の柔らかさと陶芸の硬質な質感の対比を意識し、動きのあるフォルムを作り出したかったので、今にも風になびきそうな軽やかな印象になるようにバランスを見ながら細かい修正を何度もしました。また、スカートのプリーツの表現にこだわり、リアルさの中にも芸術的な抽象性を持たせることを意識しました。華やかさを残した清楚なスカートにするために釉薬の使い方にも工夫を凝らし、黒マット釉と瑠璃ガラス釉を使ってグラデーションにしました。生地風の合いを演出することで、視覚的な違和感をなくしながらも陶芸ならではの独自の表現を目指しました。

この作品を見た人が、スカートを身に着けた時に元気が出て、勇気と自信が湧いてくる強みを持てるように、「私の強み・長所」といった意味がある「my strongpoint」というタイトルにしました。

作品№11



▪ 作品の寸法 横 450 mm × 奥行 450 mm × 高さ 300 mm

ヤマタノオロチ

出品者所属・氏名：長崎県立波佐見高等学校・長岡 ^{ながおか} 拓巳 ^{たくみ}

この作品は、日本神話に登場する伝説の大蛇「ヤマタノオロチ」を陶芸の技法で表現したものです。ヤマタノオロチは、八つの頭と八つの尾を持つ巨大な蛇として描かれ、神話ではスサノオノミコトによって退治される存在です。この造形の複雑さと神話が持つ壮大な物語に魅力を感じ、陶芸作品として形に残せるよう挑戦しました。

成形では、大きな岩から八つの頭の大蛇が勢いよく飛び出している様子を表現しました。目は黒マット釉と透明釉薬を塗り分けて艶を出し、生命感を演出しました。また、釉薬の工夫により、蛇のうろこに神秘的な風合いを持たせ、非現実的な印象を表現しました。口を開けて炎を出す瞬間を表していますが、表情は怖いというより、可愛い感じにして、親近感がわくようにしました。

この作品を通して、日本神話の世界観を現代に伝え、陶芸の可能性の広がりを感じてもらえればと思います。歴史と創造の融合が生み出す新たなアートとして、多くの人に楽しんでもらえることを願っています。

作品№12



▪ 作品の寸法 横 250 mm × 奥行 250 mm × 高さ 150 mm

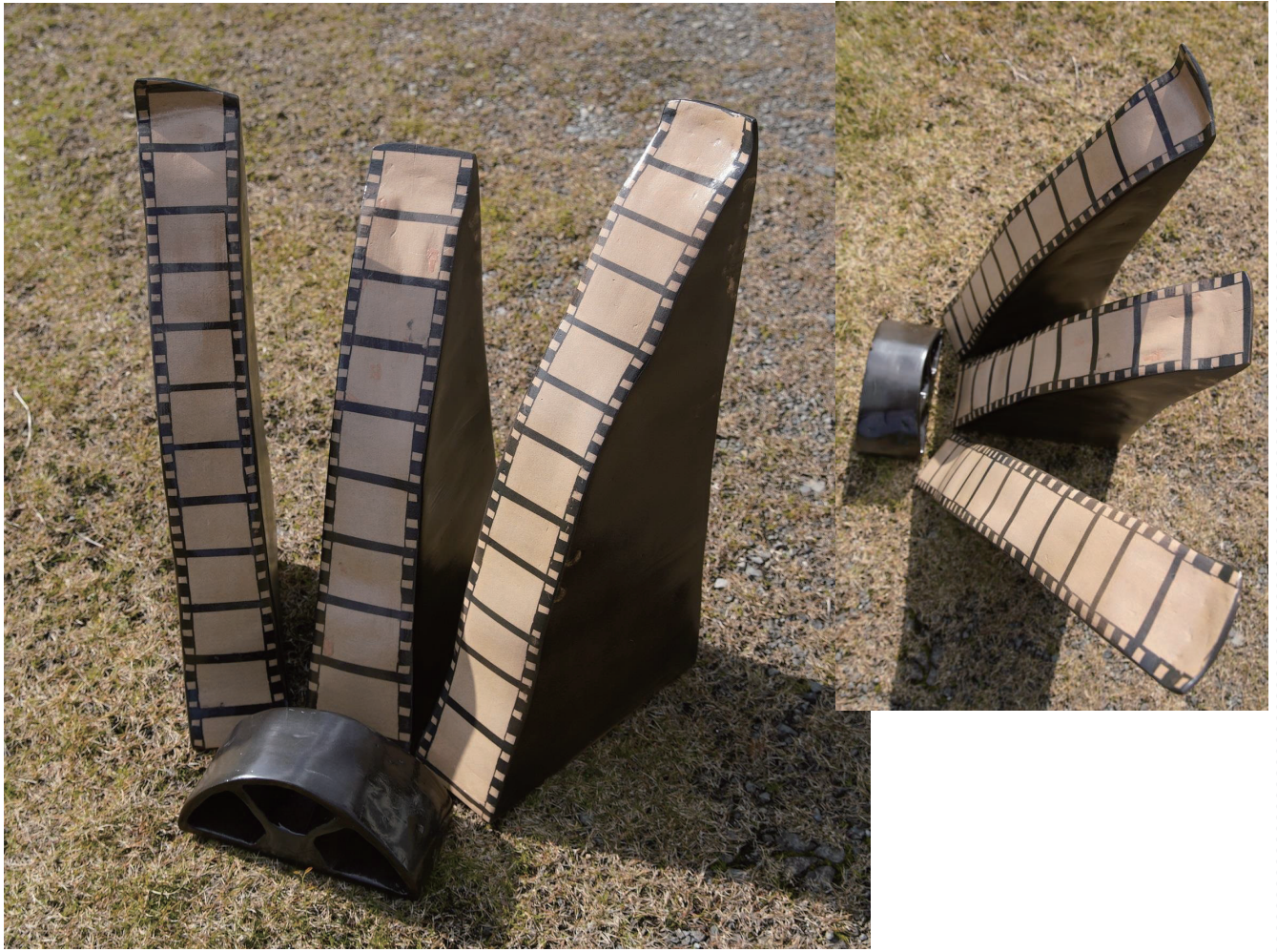
擬態中

出品者所属・氏名：長崎県立波佐見高等学校・新郷 ^{しんごう} ^{なつき} 那月

私は海が好きで、海洋生物にも興味があります。その中でもタコが大好きで、自分の好きなモチーフを作品として表現したいと思っていました。タコは曲線的でユニークなフォルムを持っており、陶芸作品として形にすることで個性的なアート作品になるのではないかと考えました。ですが、タコの足の動きや吸盤の質感を再現するのは難易度が高く、成形するときに何回も足の部分が折れたり、思うような曲がり具合にならずに苦戦しましたが、なんとか形が完成しました。

タコは「多幸（たこう）」とも読めるため、幸せを呼ぶ縁起物として制作したいと考え、釉薬は白一色にしました。また、吸盤がしっかり吸い付くことから「物事に粘り強く取り組めるようになりたい」という願いを込めました。

作品№13



▪ 作品の寸法 横 670 mm × 奥行 450 mm × 高さ 610 mm

film

出品者所属・氏名：長崎県立波佐見高等学校・山北 理央

この作品は、何か動くようなものが作りたいと思い、フィルムの形が思い浮かびました。「フィルムを焼く」という言葉もあるのでいいモチーフだと思いました。フィルムの巻物（半円形）も作ったので、どこか映写機をイメージしたのもあります。映画のフィルムロールを陶芸で表現することで、「時間の流れ」と「記憶の記録」というテーマを形にしました。映画は一瞬一瞬の映像が連なり、物語を紡いでいく芸術です。私は、その「流れ続ける時間」を象徴するフィルムロールを、永遠に残る陶芸という手法で表現することで、時間の儚さと記憶の大切さを対比させたいと考えました。

制作においては、フィルムが中心から波打って広がっていく様子を紐づくり成形で形を完成させました。最初は幅を薄くする予定でしたが、強度を考えると坂道のような形になりました。釉薬の色合いを調整し、使い込まれたフィルムのような風合いを出すことで、懐かしさや温かみを感じさせる作品に仕上げました。また、フィルム部分にはマスキングテープを一枚一枚貼って彩色し、本物のフィルムに近づくように細かい装飾に取り組みました。

この作品を通して、映画が持つ「時間」と「記憶」の力を再認識し、観る人がそれぞれの物語を思い出すきっかけになればと思います。陶芸という静の芸術と映画という動の芸術を融合させた、新たな表現の可能性を感じてもらえれば幸いです。

作品№14



花器と小物入れ

出品者所属・名前：大阪府立泉尾工業高等学校・小野 楓

家で使えるものを作りたいって、吹きガラスの課題を選択しました。

色々な色ガラスで吹くことに挑戦しました。

無色透明のガラスと違って、あぶり窯に入れてもなかなか柔らかくならず、溶けてきたなって思ったらこんどは急に溶け落ちそうになって、大変でした。先生に聞いたら、熱を伝える光が中まで伝わらないからだそうです。

いちばん気に入っているのは、青い花瓶です。ほんとはもう少し首を細長くしたかったんですけど、伸ばした首を再び溶かして、形を整えているうちに縮んでしまいました。色ガラスは、影も色がつくので好きです。

四角いのはペン立てのつもりで作りました。木型の中で吹くのが遅れて、伸びてしまって少し長くなってしまいました。花瓶に使えるかなので、花を生けようと思います。

透明と黄色、青色の混ざっているのは、小物入れです。本当は泡ガラスにしようと思っていたのだけど、泡を作る薬品の液をつける順番を間違えて、ヒビガラスになってしまいました。ヒビガラスも影に模様が入ってきれいなので気に入っています。

作品№15



小物入れ

出品者所属・名前：大阪府立泉尾工業高等学校・黒島秀作

プレゼントに喜ばれると思い、ガラス小物入れ作りに挑戦しました。

透明で色々な色がついているのは、色ガラスのかたまりを砕いて、透明なガラスに埋め込んで作りました。色ガラスにも透明なものと、透明でないのがあります。透明でも色が目立つように、色ガラスの砕き方を工夫しました。ちょっと大きめにするのがグッドです。

泡がついているのは、薬品で泡を入れました。ガラスは吹き竿に2回つけます。1回目のガラスをつけたあと、熱いうちに炭酸アンモンを溶かした水に浸すとガラスにヒビが入り、液が染みこみます。そして2回目のガラスをつけると、ガスが発生して泡ガラスになります。ゆっくり作っていると、泡同士が合体してきれいな泡にならないので、急いで仕上げないといけないのが難しいでした。

紫のは、灰皿です。帽子の形に作ったあと、もう一回柔らかくして鉄の棒の上に被せると、溝が出来ます。この時ツバが反ってしまい、灰が外に落ちそうなので、夏バテ防止キャンデー入れにします。

作品№16



喫茶セット

出品者所属・名前：大阪府立泉尾工業高等学校・山内航聖

赤に見えるジョッキは、実物は、紫色です。コーラの色をイメージしました。写真では見たとおりの色に写りません。取っ手をつけると、取っ手の重さでこけてしまっ、始めは失敗しました。底に分厚いガラスが残ればこけなくて済みます。だけど、普通に吹いたのでは、底だけ厚くするのは難しい。吹き始めに十分熱くして、吹き竿の角度を強くしてゆっくり吹いたら、底にガラスが残ると教えてもらったので、何回かやってようやく出来ました。

青いのは修学旅行の途中で見た富士山のイメージをガラスで作りました。上を細くするのは、上を熱くして柔らかくなったところをピンセットで引っ張って伸ばして細くします。シロップを入れるのに使います。

無色透明なのは、ゼリー入れです。ゼリーの色が目立つよう、あえて色はつけていません。コップ状に成形したのち、底の部分を熱して半分溶かして下に向けると、垂れて底を尖らせます。そこに溶けたガラスのかたまりをつないで作りました。

作品№17



積み木式電飾（12cm 角の立方体×5 個）

出品者所属・名前：大阪府立泉尾工業高等学校・

・泉風香・宇都木朔也・森野悠成・山内航聖・吉實優心

色ガラスの板の端切れが色々あったので、それを使って何か作れないかと考えました。

ガラス同士をつなぐのに、ステンドグラスの技法を用いることにしました。やりかたは、次のとおりです。

- 1：ガラス板を切って、形や大きさを整える。
- 2：ガラス板の端面を薄い銅板で覆う。
- 3：ハンダを使って銅板を固定する。
- 4：銅板部分をハンダでつないで一枚の板にする。

やってみると、曲線切りは難しく、直線でしかうまく切れませんでした。そこで、直線だけで切ってきれいに見えるよう、下絵を描き、下絵に合うようにガラス板を切り出して、作ることにしました。

試しに作った板を見ていると、光に透かしたときの方がきれいだったので、板を組み合わせて電飾にしました。一つでも楽しめますが、いくつか組み合わせることで、電飾としてのバリエーションが広がります。

作品№18



信楽焼伝統花器

滋賀県立信楽高等学校・金澤 真叶

サイズ

高さ20センチ

横14センチ

奥行14センチ

信楽高校に設置されている穴窯を利用し、今年度12月13日より4日間薪をくべて焼成させることができました。本作品は、穴窯の一番手前に棚置きし、1300℃まで上昇させ、1250℃まで落ち着いたところ窯から引き出し、急冷し、神秘的な緑色や赤色などの窯変が表現できました。信楽焼の伝統に重んじた3点わびさびのある作品です。

作品№19



海の仲間

滋賀県立信楽高等学校・田中 心

サイズ

高さ5センチ

横40センチ

奥行20センチ

海の仲間をテーマに作品を制作しました。しかし、琵琶湖に生息しているオオサンショウウオを制作し、琵琶湖から飛びだし、大海へと飛び出てほしいと思い思い切って制作しました。艶のある釉薬を駆使し、生物感を表現しました。

作品№20



作品№21



作品№22



きっかけ

私たちは自分たちが何に困ったことがあったか考えていた時に2年生で習うゼーゲル式という計算が「難しい」「何のために計算しているのかが分からない」といったことがあり、それをきっかけにこれから後輩たちが分かりやすく学べるような教材を作ろうと決めました。

ピース制作

計算

釉薬を作るにあたり、調合量を計算するためにエクセルで表を作成。数値を入力することで、自動で計算できるように設定しました。

調合



調合に必要な数値を計算、釉薬のもとになる成分をすり鉢ですり、水と混ぜ合わせ水分量を調節しながら丁度いい粘度にします。

型の成型



テストピースも含め、たくさんの量が必要だと考えたので、木節粘土で原型を作り型成型で作成しました。
釉薬に関係するようなので「荒土」「半磁器土」の二つを使いました。
一つの原型では、個数が追いつかなかったため「タコ焼き型」のような形の型を作りました。

焼成

テストピースに、計算し調合した釉薬を荒土と半磁器土にかけ焼成します。

一回目焼成したピースは変化があまり見られなかったため、「焼成時間」「焼成温度」「水分量」を何度も調整しました。



計算・調合

型の作成

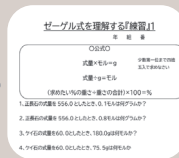
焼成

授業

プリント作成

過去の授業プリントを参考にこの班オリジナルの物を1から作り、練習問題はテストや検定のときに答えられるようにさまざまな問題を載せました。
授業のスピードに追いつけないことも考慮し、例えの図や簡単にまとめた説明などはずっと手元にあるプリントのほうに載せるようにしました。

計算方法やメモ欄も載せ、後から見返したときにわかりやすいプリントになるよう工夫しています。



×6

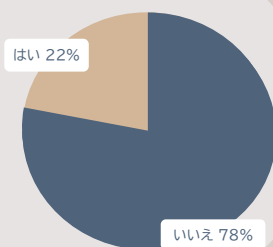
授業用パワポ

「ゼーゲル式を理解する」という題で説明する順番や難しい部分の簡略化、用語の表現の仕方などに気を付けながらゼーゲルの知識についての3つと練習問題を2つを作成しました。



アンケート結果

良かった点
・プリントが見やすかった
悪かった点
・授業時間が足りなかった
・表の数字が何を表しているのかわからなかった



まとめ

私たちの班は過去の経験から元からある「教材」を、先生には「より使いやすく」、生徒には「よりわかりやすく」できないかと考えました。
コンセプトやターゲットを決めてからアンケートを取るまでの長い間、班員で話し合ったり、先生からアドバイスをもらったりと何度も試行錯誤を繰り返しながらゼーゲルの「教材」を作り上げました。
「わかりやすい」「教材」ができたのかを数値・データ化するために先生に授業を行ってもらいアンケートを取りましたが、自分たちが思っていた以上に時間が少なく「教材」を完成させることができませんでした。
しかし、「教材」を作る先生方の苦勞を知ることができ、いい経験になりました。

研究のきっかけ

私たちは、陶器の汎用性を高めることをテーマにしようと話し合いました。最初の案は“蓄光粘土で学校をより安全にする”というものでしたが、材料が集めにくいことなどから現実的ではないことに気づきました。そこで他の案を考えていたところ、大量廃棄されていて環境問題視されているコーヒー殻を再利用し陶器の利便性を向上させ、利用者の幅を広げることで汎用性が高まるのではないかと考えました。



“お店と協力する循環型製品の作成”というコンセプトをもとに周辺にあるカフェ「リトルフラワーコーヒー」さんに協力していただき、廃棄する大量のコーヒー殻をいただきました！！

コーヒー殻は粘土に混ぜても焼成すると無く
 するため多孔質陶器を作ることが出来る

多孔質陶器とは、表面や物体中に小さな穴が多数存在する性質
 のことをいい、陶器を軽くしたり吸水性を高める

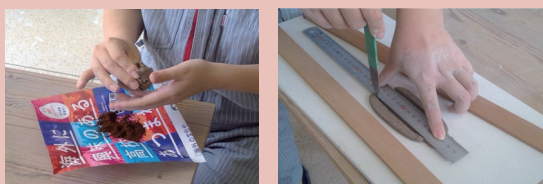
→ この特性を生かすため製品を植木鉢に決定！！

製作準備

1. 実験

いただいたコーヒー殻を使って粘土に混ぜたときの
重さと吸水率を調べるためにテストピースの作成

荒土と半磁器土それぞれ、50gに大して何も入れ
 ない0%コーヒー殻を0.5g入れた1%、コーヒー殻
 を2.5g入れた5%、コーヒー殻を5g入れた10%で
 作り実験



結果は、半磁器土も荒土も混ぜる量が多くなるに
 つれて重さが軽くなっている
 また、吸水率は少し不安定で10%のときには同じ
 吸水率になったが、水を吸う量は増えている

荒土 半磁器土

重さ(g)	0%	1%	5%	10%
半磁器土	29.0	25.9	21.2	17.6
荒土	26.8	24.6	19.7	19.5
吸水率 (5分10ml)	0%	1%	5%	10%
半磁器土	0.5	0.5	0.4	0.7
荒土	0.5	0.6	0.8	0.7

2. デザイン案

結果を元に、見た目の違いや使う技法なども考慮
 しながら班員でそれぞれデザインを考え、1人お店
 の雰囲気合った植木鉢を考える

- デザインの統一性がない
- ・成形技法が複数で時間がかかる
- ・コーヒー殻の消費量が少ない

これらの問題点が上がったため
 デザイン案と成形技法を考え直し！

デザインはお店の雰囲気に合わせてシンプルにし
 て、成形技法も短時間でできるろくろ成形で釉薬を
 かけずに無釉で揃えて統一感を上げる



新しいデザイン案で決定！！

製品製作

1. 混ぜる

粘土とコーヒー殻を混ぜると均等にならない、水
 分を吸収するため乾燥が激しくなる

工夫 しっぴきを使い粘土とコーヒー殻を交互に
 ミルフィーユ状にする



問題 カビが大量発生

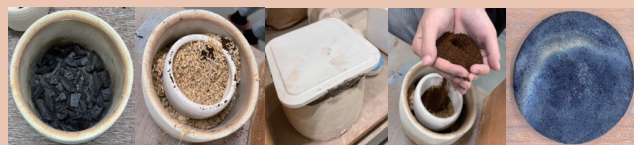
→ 夏休み前に一度混ぜたものを夏休みに入り長期間放
置してしまったことが原因だと考えられる

2. 炭化焼成

コーヒー殻の消費量を増やすため炭化焼成を行う

炭化焼成とは、もみ殻を燃焼した際に出てくる炭
 素を表面に付着させて、黒色に焼き上げる技法

素焼き後、さやの中に炭と作品を入れもみ殻に加
 えてコーヒー殻と一緒に敷き詰める



完成！！



お店の感想

最初に見たときは黒色でも味
 があって可愛いと思いました！
 実際に使ってみてデザインも雰
 囲気に合っているし使いやすく
 サイズ感もとても良かったです
 す！！！！！！

メンバーの感想

コンセプトを決めも難しく色々
 考えた結果、お店の人とも協力出
 来てコーヒー殻を大量に消費する
 ことが出来たので良かったと思
 いました。
 植木鉢もカビなどたくさん苦労
 したけど全員可愛く仕上げるこ
 とが出来ました！！！！

きっかけ

はじめに、「釉薬をかければ水に強い」「錆びない」「重い」「素焼きには吸水性がある」という陶器の特性を生かせるものは何かと考えていた時に、傘立てはどうかという意見がでた。
傘立ての欠点は陶器で解決できると考え、課題研究を始めた。

ターゲット

傘一本だけを立てるための傘立てを必要とした

一人暮らしをしている人

一人暮らしの傘立ての問題点

- ・大きな傘立てを置くことができるスペースがない。
- ・傘立てを洗うことのできる環境がない。
- ・傘同士や、傘と傘立ての接点を清潔に保つことができない。
- ・受け皿に溜まった雨水の影響で、湿度が上がったり、雑菌が繁殖してしまったりする。

解決するために

3つのコンセプトを決定

1 省スペース型

「コンパクト」であることを大切に。玄関が狭くても、ストレスなく置くことができる。

2 洗いやすく清潔

ホースやシャワーで洗えなくても大丈夫。シンクや洗面所で水洗いできる。1本ずつだから衛生的。

3 やきもののよさ

水に強く、錆びない。そして重い。受け皿の雨水を放置しない。陶器の良さを最大限生かす。

完成目標

重心を下に置いた富士山型。
下のプレートは珪藻土を使うことで、水滴が吸水されるようにする。
内部は、真ん中に穴が下まで貫通した円形状に設計する。底に返しをつけることで、プレートに直接傘の先端が当たらない形状。



研究内容：珪藻土

粘土に混ぜる粉末珪藻土の量、粘土の種類、焼成温度の三つの要素から対照実験を行い、吸水率の変化を調べた。
テストピースは、300gの半磁器土、荒土に粉末珪藻土を混ぜたものと、焼成温度を変えた場合のものを用意した。(下図)

テストピース



実験方法

- ① 水300ccが入ったボウルの中にテストピースを3分間入れる
- ② テストピースを取り出し、残った水の量をはかる
- ③ 引き算をしてテストピースが吸った水の量を調べる

結果

・半磁器土の場合(素焼き)							・荒土の場合(素焼き)						
珪藻土(g)	0	10	20	30	40	50	珪藻土(g)	0	10	20	30	40	50
吸った水量(cc)	14	14	15	16	16	17	吸った水量(cc)	10	12	12	12	13	15

結果(焼成温度の違い)

半磁器土	珪藻土(g)	50	50	荒土	珪藻土(g)	50	50
	吸った水量(cc)	17	3		吸った水量(cc)	15	2
		素焼き	本焼成			素焼き	本焼成

研究内容：珪藻土

わかったこと

- ・粉末珪藻土が多く含まれるほど、吸水率も高くなる。
- ・荒土よりも半磁器土のほうが吸水率が高くなる。
- ・本焼成よりも素焼きのほうが吸水率が高くなる。

半磁器土に粉末珪藻土50g入れた土を使うことに決定

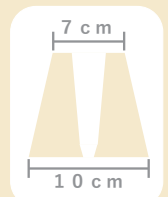
実際に制作する形状

傘立てを本体を置いてもうずれないよう返しのついた円形のプレートにすることにした。



研究内容：本体(型成型)

富士山型の形状をした、上面の直径7cm、下面の直径10cmで内部に返しのついた穴のある形の型を成形すること目標にした。



成型方法

- ① 石膏型を使い、電動ろくろで成形する。
- ② 石膏ろくろに置き、下面の大きさが完成形の大きさになるように土を増やす。そこに石膏を流し込む。
- ③ 下面になる部分を10cm、上面になる部分が7cmになるように斜線の部分を石膏ろくろで削る。
- ④ 石膏型でできた原型の完成!!
- ⑤ ④を使って、上下、側面の二つ、内側の計5つの型を作る。
- ⑥ 鋳込み成形をして乾燥、素焼きをした後に、白マットと黒マットの二種類の釉薬をかけ、本焼成をする。

完成品



パッケージ

正方形の箱。
上部分に紐の持ち手をつけた形状。
内部は製品が割れないよう緩衝材を入れる。



実際に使ってもらった感想

プレートが水を吸ってくれるから、玄関がベタベタにならないのがいい。家に合うように黒白だけでなく、グレーなどのものもあるとなお良い。(20代女性)

傘が独立して立つため、場所を取らないのが良い。玄関に置いたときに、いい意味で目立たなくて自然な感じが良かった。(20代男性)

まとめ

この課題研究を通して、製品を一つの物として形にする大変さを学んだ。使う人の立場や生活を考えたり、どうしたら生活の質を上げられるのか班の仲間と試行錯誤をしながら進めることができた。この経験を生かして、新しい視点から物事を見ることの大切さを忘れず、今後の糧にしていきたい。